

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

平成30年6月29日

苫小牧市図書館協議会 会長 松井 操人

<総評>

平成29年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、年度当初に予定した事業をすべて実施し、サービスの向上に向けて取り組まれている姿勢が見受けられました。レファレンス件数、未就学児に対する貸出冊数などについて前年よりも増加しているほか、イベント参加者数については目標値の2倍以上増加しており、市民団体やボランティアと連携し、市民ニーズを捉えた事業を開催していることは評価できます。また、学校支援事業についても活発に取り組み、今年度作成した児童向け郷土ガイドブックについては、幼少時から郷土への興味や理解を深めるためにも効果的な取組であり、今後の活用に期待します。インターネットサービスや電子図書館については、さらなる利用増につなげられるよう利用者に有益な情報等の発信を継続していただきたいと考えます。

今年度は来館者数、貸出冊数及びブックちゃんの貸出数が昨年度より減じていますが、ブックちゃんについては学校との連携を深め、セットについてさらなる見直しを図るなど、原因の分析を行い、対策について検討していただきたいと考えます。また、図書館に来館することが困難な方へのサービスについての検討や、施設やサービスがさらに活用されるような新しい情報の発信及び周知の工夫が必要と考えます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、さらなる図書館運営の充実に努めてください。

「基本目標Ⅰ 情報と知識を集積した知の情報拠点としての図書館」について

【評価する点】

- ・ネット社会の中、わざわざ図書館に足を運ぶ目的は「正しい情報」を提供してくれる場所として認知されているからであり、信頼を得ていると考えます。
- ・ICT講座は市民の情報格差が解消されるよう継続を望みます。毎年実施していることは評価できます。スマートフォン等の普及により必要性が前より低下していますが、公共施設として維持していくという姿勢は非常に良いと感じます。
- ・ブログで桜の開花状況などを伝え、来館のきっかけを生む工夫をしていること。
- ・レファレンス件数は職員の努力で増となっており、市民に認知されてきていると感じます。
- ・インターネットサービスについて、新しい情報、有益な情報を更新し、利用者増につなげるため継続を望みます。
- ・当初予定していた事業を全て実施している点。
- ・本の管理、対応が良いと感じます。除籍についても市教委との二重チェック体制で誤廃棄がないよう努め、蔵書整備を行っている点。
- ・電子図書館はよい取組だと思います。

【改善を要する点】

- ・蔵書について検証を怠らず、最新の情報を提供する必要があります。
- ・図書館情報誌「ぱびるす」での様々な情報の発信を求めます。
- ・利用者カード所有者の年代層の分析を行い、利用者増につなげては。
- ・「情報拠点としての図書館」が市民に浸透するような取組が必要。
- ・来館者数、貸出冊数が前年比減であったことは深刻。原因の分析と対策が必要。現行の事業とは別の取組が必要かもしれない。
- ・ホームページからのレファレンス受付への対応の検討を。また、ホームページ上の過去のレファレンス例を更新するとよいと思います。
- ・音楽コンテンツ配信サービス、電子図書館について広報の必要がある。
- ・来館者以外の声を聞く機会が必要。来館者以外の市民への情報拠点の役割周知への取組の検討を望みます。

「基本目標Ⅱ 読書活動推進、支援拠点としての図書館」について

【評価する点】

- ・図書館を利用するたびに新鮮なイメージがあり、書架の状態や展示等について、職員の工夫や努力がうかがえます。
- ・ブックちゃんの中学生セット作成は良い取組だと思う。また、セット改編により担当教諭が借りやすく、複数校の貸出申込に対応できるようになった点も良い。
- ・乳幼児への貸出、保育施設に対する読書支援が順調に推移しており、幼児からの読書習慣の確立につながることを期待します。
- ・学校支援事業は学校関係者からも評価されています。
- ・読書感想文・画、調べる学習コンクールなどの開催は大変望ましく、今後も学校と連携し、行って行ってほしい。

【改善を要する点】

- ・大活字本や朗読テープについて、健常者への周知による新たな活用で貸出増を図ってほしい。
- ・ブックちゃんの貸出件数の減について、新しいセットの検討などについて学校との連携を密にし、ニーズに対応した改善を望みます。
- ・調べる学習コンクールについて取組の拡大を期待します。

「基本目標Ⅲ 市民が利用しやすく、役立つ図書館」について

【評価する点】

- ・ユーザビリティ向上事業は今後益々求められる大変有効な事業と考える。
- ・レファレンス件数が増加した点。
- ・アンケートの利用者満足度が高く、職員の対応を評価する意見が多いなど、サービス向上に対する努力がうかがえる。
- ・アンケートで利用者意見を取り入れ、改善を図っている点。
- ・リラックススペースは多目的に利用でき、とても良い。
- ・パスファインダーの作成は大変だが価値ある大切な活動、継続を望みます。
- ・アンケート結果から蔵書検索システムに対する不満が読み取れるが、丁寧な対応を心がけている点。
- ・学校支援事業「まなぶくん」などで学校を訪れるスタッフの対応がよく、部会の先生や子どもからも評判が良い。

【改善を要する点】

- ・図書館を利用しにくい人へのサービスの検討、内容の充実を図ってほしい。
- ・大人向けのバックヤード体験会等の検討をしてほしい。裏側の体験ができると興味が深まると思います。
- ・十進分類法を分かりやすい言い換えなどで利用者理解が深まるよう努力しているが、書棚のわかりにくさを指摘する意見も寄せられていることから、さらなる取組みについて検討いただきたいと考えます。
- ・アンケートについては、指摘の多いトイレ改修についての検討が必要だと思えます。その他の意見についても、可能なところから改善の対応を望みます。
- ・利用者カードの普及について啓発活動を検討してほしいです。

「基本目標Ⅳ 郷土の歴史と特性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」について

【評価する点】

- ・ 児童向けの郷土ガイドブックの作成、小学校配布は大変良い取組である。自分が育った町を知り、愛して育ててほしいです。
- ・ 地域に根ざした内容の「講演と資料の両面から学べる図書館ならではの講座」を開催し、継続している点。
- ・ 目標をおおむね達成しており、郷土文化を大切にする図書館運営となっていること。

【改善を要する点】

- ・ 郷土ガイドブックの活用を夏休みに限定せず行っていただきたい。学校図書館部会でも取り上げ、連携して活用を図っていきたいです。
- ・ 2階、郷土資料室を利用しやすくする工夫を。興味が広がるような活用・利用方法のPR等を望みます。

「基本目標Ⅴ 人と本、人と人との出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが
感じられる図書館」について

【評価する点】

- ・図書館でつながるネットワークの構築が進んでいることは大変素晴らしい。
- ・年間行事の参加者が目標を2倍以上上回り、生涯学習活動の場の提供に寄与している。
- ・ボランティア同士の活動の機会や交流の催しがあり、互いに刺激しあえている。
- ・イベントが定着し、図書館利用の活気が感じられる。
- ・接遇についてアンケートで高く評価されている点。

【改善を要する点】

- ・今後も多くの団体と連携し、図書館としての役割を広げ、充実を深めてほしい。
- ・ボランティアと図書館職員のコミュニケーションをさらに深める必要があると感じます。